

★被災されたみなさまへお見舞い申し上げます。

★育苗ハウスの建設が間に合わず、代替え方法の検討も必要に！

1 今年度を振り返る前に

台風15号を始めとする台風による大雨、強風により被災された多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。農作物、農業施設等にも大きな被害が出て、これまでに無いような大きな被害になりました。

また、台風で育苗ハウスの破損・損壊が多く発生しています。資材のみならず、加工や建設の職人も不足しており、育苗ハウスの建設・再建が間に合わない状況も予想されます。

2 今年度の君津地域の水稲の生育を振り返って

関東農政局発表の本県の作況指数(10月15日現在)は「95」(1993年以降最も低い)、農産物検査のうるち玄米1等米比率(9月30日現在の速報値)は83.6%と、本年は収量・品質ともに低下しました。君津地域においても同様の傾向が見られ、作柄調査も早生品種を中心に収量や品質低下が見られました。

減収の最も大きな原因は、7月前半の寡照・低温条件により1穂粒数が減り、全体の粒数が少なくなったことです。4月末から5月初旬に植えたほ場のような前半の生育が不足し、莖数・穂数が確保しにくかったところでは、粒数が減少し、収量が著しく低下しました。また、登熟期間中の高温、紋枯病の発生、7月前半の低温条件による粒サイズの縮小等により、1粒あたりの重さが軽くなったことも減収を助長しました。

一方、品質が低下した最も大きな原因は、8月以降に斑点米カメムシが多発生し、斑点米が増加したことです。このため、7月に一度防除しても、等級が落ちるほどの斑点米が発生するほ場が増加しました。また、登熟期間が高温であったため白未熟粒(特に基部未熟・背白粒)が増加したことも重なり、品質が低下しやすかった年となりました。

3 来年度に向けて(今年度の状況を受けての対策)

① 育苗ハウスが無い(足りない)時の育苗について

台風被害により、育苗ハウスの建設・再建が間に合わない可能性も出てきています。そのような状況下でも、育苗をするために、ハウスの状況に応じていくつかの方法があります。

ハウスが足りないので、10aあたりに使用する苗箱数を減らす、ハウスの回転数を増やす、そもそもハウスを使わない方法にする、といったことが考えられます。以下に、具体的な方法を記載していきます。

～その1：育苗ハウス不足⇒使用する苗箱数を減らす(疎植、高密度播種育苗技術)～

まず、移植に使用する苗箱を減らすため、疎植に取り組む場合は標準(坪当たり60株、㎡当たり18株植え)の8割として坪当たり48株、㎡当たり14.5株を目安とすることで、概ね育苗箱を2割削減できます。ただし、収量と玄米品質の低下を防ぐためには、4月中・下旬に移植すること、植付本数は減らさず株当たり4～6本とすること、特に「コシヒカリ」では中干しを適切に行うことが必要です。また、早生の「ふさおとめ」は生育期間が短く、穂数が確保できず減収するため、疎植には向きません。

次に、水稲高密度播種育苗は、少ない苗箱数で田植えをするために一箱当たりの播種量を増加させる技術です。田植え機の苗掻き取り量を減らすために、専用の田植え機や苗送り回数の変更、移植爪等の専用部品への交換など、水稲高密度播種育苗に対応した田植え機が必要です。お持ちの田植え機が対応可能かは、各メーカーにお問い合わせください。

播種量は、各メーカーの推奨する範囲内(220～300g)とし、「ふさこがね」等粒の大きい

品種は「コシヒカリ」より1割程度多く播種することで箱当たり粒数を揃えます。

播種量が多いのでマットの形成が早い反面、苗の老化も早いので、田植えは播種後14日から21日頃に行います（3月下旬播種、育苗器使用の場合）。田植え時期の温度が低いと活着が悪くなるので、過度な早植えは避け、植え付け本数を減らさずに適正に保ちます。また、苗掻き取り量が減ることによる浮き苗防止のために育苗培土の量は減らさないでください。

② ～その2：育苗ハウス不足⇒育苗ハウスの回転数を増やす～

10aに使う苗箱は変えずに、育苗回数を増やして必要な苗を確保する方法です。

無加温ハウス内平置きによる育苗日数は4月植えて30～25日、5月植えて20日程度必要です。育苗器で出芽させると数日短縮できます。

なお、5月中旬～下旬植えの晩植「コシヒカリ」は通常植えより倒伏しやすくなるため、やや疎植とし、基肥窒素は標準より10a当たり1～2kg減量します。

③ ～その3：育苗ハウスが利用できない⇒リスクを減らしつつ、育苗する～

露地プール育苗は、育苗を湛水したプールで行うプール育苗を露地で行う技術です。保温のためにべたがけ資材を苗の上に被覆します。パイプハウスが無くても育苗ができ、湛水するので育苗期間中の灌水作業が省力できます。

育苗床は、凹凸が無いように均平にして、水深が一定になるように水平にする必要があります。育苗用のプールは、雑草防止に黒マルチを敷き、木枠で四方を囲み、農業用のポリシートでプールを作ります。湛水前のプールに芽出した育苗箱を並べ、べたがけをして2日間緑化をし、その後に、床土の表面が露出しない程度の深さに湛水します。べたがけは、ポリプロピレン製の不織布を用い、2枚重ねにして裾を育苗箱の下に入れて押さえます。

育苗中の水管理は床土の表面が露出しない程度の深さを保ちます。露地で育苗するために天候の影響を受けやすいので、育苗期間は慣行のパイプハウスと比べて長くなります（目安として2日程度）。4月20～25日にコシヒカリを移植するためには、3月27日から4月2日を目安に播種します。

上記以外にも、トンネル被覆による畑育苗等もありますが、根底の育苗の温度管理の基本は同様です。低温にも、高温にもなりすぎない温度管理を目指しましょう。

④ 台風後の稲わらすき込みの注意点について

台風の影響により、刈り取り後の稲わらが吹き寄せられ、ほ場の一角に堆積している状態が散見されます。一か所にわらが大量に残ると分解が進まず、植え付け後に「ワキ」と呼ばれるガス害が発生し、苗の活着遅れや分けつ遅れの被害が予想されます。

対策としては、堆積した稲わらをほ場全体に広げる、もしくは取り除くこと、そして、土壌を乾かすことで分解を促進させることです。「わらゴールド」等の腐熟促進資材も効果的ですが、散布後はできるだけ早く、深さ5～10cm程度で浅くすき込む必要があります。

4 水稻災害対応研修会のお知らせ

今後の気象災害への対応を目指す水稻経営や今回の台風被害への対応を目的とした水稻災害対応研修会を令和2年1月10日（金）に実施します。上記の技術の紹介以外にも、農業機械の紹介等も予定しております。参加希望の方は、事前のお申込みをお願いします。みなさまのご参加をお待ちしております。詳しくは別紙をご覧ください。

令和元年度の稲作では大変お世話になりました。

来年以降も引き続き、よろしく申し上げます。

ご不明な点等ありましたら、お気軽にお問合せください。

-農業事務所より郵便で配信している方へお願い-

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXに切り替えを進めています。

電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 宇津木 i.utsg2@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299（電話）

令和2年度育苗に向けて！

水稲災害対応研修会

台風15号の強風で被災した育苗ハウス被害を受け、以下の対策案をご紹介します。

- ★**露地プール育苗技術**（ハウスを利用できない場合）
- ★**疎植栽培**（通常より苗数が不足するような場合）
- ★**遅植え栽培**（育苗の回数を増やす場合）
- ★**高密度播種苗育成**（苗箱を減らす場合）

そのほか、

安定的な発芽のための**育苗器**

天災リスクに備える**収入保険・園芸施設共済**

停電時の乾燥機・糶摺り機稼働のための**発電機**

苗運び労力軽減のための**レール** も紹介予定！

事前申し込み制 締切1月6日（月）

期 日 令和2年 1月10日（金）

時 間 午後1時30分から4時まで

会 場 君津合同庁舎4階大会議室

● 会場の場所（君津合同庁舎（君津農業事務所） 4階大会議室）



住所：木更津市貝渕3-13-34

● 当日のスケジュール（予定）

- 1:30 開会、主催者あいさつ
- 1:40 令和2年産の水稻育苗について
露地プール育苗技術、疎植栽培、遅植え栽培
高密度播種苗育成 等
- 2:40 育苗器の紹介
- 2:50 休憩
- 3:00 収入保険、園芸施設共済の紹介
- 3:20 停電時の乾燥機・粃摺り機稼働のための発電機
- 3:40 苗運びの労力負担軽減のためのレール紹介
- 4:00 閉会

● 参加の申込み・お問合せ先

下記に記入し、FAX又はお電話にてお申込み下さい。駐車スペースに限りがあるためできるだけ**乗り合わせ**でお越し下さい。12月28日～1月5日は年末年始で窓口が閉鎖しているためFAXのみ受け付けます。

出席者氏名	所属または地域	電話番号